

めぐみイエス・キリスト教会

2022年4月3日(日)第一主日礼拝・午前10時
週報「通算第602号」



2022年標題聖句

第 I テモテへの手紙御6章17節～19節

《高慢にならず、頼りにならない富にではなく、むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませて下さる神に望みを置き、善を行ない、立派な行ないに富み、惜しみなく施し、喜んで分け与え、来たるべき世において立派な土台となるものを自分自身のために蓄え、まことのいのちを得るように命じなさい。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】		
【賛美Ⅰ】	新聖歌101「イエスよ十字架に」	p. 141
【交読文】	No.18 詩篇第50篇	p. 892
【賛美Ⅱ】	新聖歌316「御言葉なる」	p. 500
【使徒信条】		
【主の祈り】		
【先週説教】		
【賛美Ⅲ】	オリジナル曲No.2「ビジョン」	
【聖書朗読】	使徒の働き16章6節～11節(新約p. 267上段)	
【礼拝説教】	《マケドニア人の幻》	
【聖餐式】		
【賛美Ⅳ】	新聖歌165「栄光イエスにあれ」	p. 235
【平和祈り】		
【頌 栄】	新聖歌63 「父・御子・御霊の」	p. 85
【祝祷後奏】		

※本日の聖書箇所(使徒の働き16章6節～11節)

16:6 それから**彼ら**は、アジアでみ言葉を語ることを聖霊によって禁じられたので、フリュギア・ガラテヤの地方を通過して行った。

16:7 こうしてミシアの近くまで来たとき、ビティニアに進もうとしたが、イエスの御霊がそれを許されなかった。

16:8 それでミシアを通過して、トロアスに下った。

16:9 その夜、パウロは幻を見た。一人のマケドニア人が立って「マケドニアに渡って来て、私たちに助けて下さい」と懇願するのであった。

16:10 パウロがこの幻を見たとき、私たちはただちにマケドニアに渡ることにした。彼らに福音を宣べ伝えるために、神が**私たち**を召しておられるのだと確信したからである。

16:11 **私たち**はトロアスから船出して、サモトラケに直航し、翌日ネアポリスに着いた。

●ポイント1.「ビティニア・ミシア・トロアス・サモトラケ・ネアポリス」とは？

■**ミシア** 小アジア北西端の地方。ヨハネの黙示録の7つの教会の一つに数えられるペルガモなどがこの地方にある。

■**ビティニア** 小アジア北西部、黒海の南に位置する地方。パウロはこの地方の伝道を計画したが聖霊は彼をトロアスからヨーロッパへと導いた。

■**トロアス** 小アジアの北西部ミシア地方にあってエーゲ海に面する港町。パウロはこの地でマケドニヤ人が自分を招く幻を見た。

■**サモトラケ**「トラキア州のサモス」という意味。エーゲ海の北東部にある島。ローマ時代には船舶の寄港地としての機能を果たした。パウロはトロアスから船出してマケドニヤのピリピへ行く途中にこの島に立ち寄った。

■**ネアポリス**「新しい町」という意味。マケドニヤの大都市ピリピの外港。パウロは第2回伝道旅行の折、小アジアのトロアスからこの地に寄港し、ヨーロッパ伝道を開始した。

●ポイント2.「彼ら」から「私たち」とは？

※使徒の働き13章1節「アンティオキア教会の指導者」 (新約p.259)

13:1 さて、アンティオキアには、そこにある教会に、バルナバ、ニゲルと呼ばれるシメオン、クレネ人ルキオ、領主ヘロデの乳兄弟マナエン、サウロなどの預言者や教師がいた。

※使徒の働き17章1節「ピリピからテサロニケへ」 (新約p.269)

17:1 パウロとシラスは、アンピポリスとアポロニアを通過して、テサロニケに行った。そこにはユダヤ人の会堂があった。

●ポイント3.「聖霊に禁じられた」と「イエスの御霊」とは？

※ガラテヤ書4章13節～14節「肉体が弱かった為」 (新約p.379)

4:13 あなたがたが知っているとおりに、私が最初あなたがたに福音を伝えたのは、私の肉体が弱かったためでした。

4:14 そして私の肉体には、あなたがたにとって試練となるものがあったのに、あなたがたは軽蔑したり嫌悪したりせず、かえって、私を神の御使いであるかのように、キリスト・イエスであるかのように、受け入れてくれました。

◎先週の礼拝メッセージの概要【テモテ】

《アンティオキアから、2つの伝道チームが派遣されました。1つは、バルナバと従兄弟のヨハネ・マルコです。彼らは、故郷キプロスに向けて出発して行きました。そしてもう1つが、パウロとシラスです。彼らはまずデルベに向かい、そしてパウロが石打ちにされた町リステラに向かいます。ここには、第一回伝道旅行の時に、救いに導かれたテモテの祖母ロイスと母ユニケがいました。テモテの父親はギリシヤ人で、当時、ユダヤ人の女性が、当地の有力なギリシヤ人と結婚することは、良くあることでした。

エルサレム教会会議において、パウロは異邦人が割礼を受けることに、真っ向から反対します。なぜなら、それは「救い」の問題に関することだからです。「救い」は、恵みの何ものでもありません。割礼を受けることや、律法をすべて守ることが「救い」にはつながらないからです。しかし、テモテの場合には、その地方にいるユダヤ人たちのために、あえて割礼を受けさせたのです。テモテは、リステラとイコニオンの教会において評判の良い人であったと言われています。この時、彼は20歳前半であったと思います。主にある兄弟たちに評判の良いことは素晴らしいことです。

神の子どもとされた私たちも、まだ主を知らない人々の中において、常に評判の良い人になることを、心に留めておく必要があります。また、それこそが世の光として、地の塩としての役割を果たすことになるのです。

さてパウロは、『私は誰に対しても自由ですが、より多くの人を獲得するために、すべての人の奴隷になりました。すべての人に、すべてのものとなりました。何とかして、何人かでも救うためです。』と、証しています。このことこそが、テモテに割礼を施したことへの真意です。

パウロとシラスとテモテは、町々を巡り、エルサレムの使徒たちと長老たちが決めた規定を、守るべきものとして、異邦人の兄弟姉妹に伝えました。こうして第一回伝道旅行の時に、バルナバとパウロによって建てられた教会は、信仰を強められ、人数も日ごとに増えて行ったのです。》

◎お知らせ

※次回「シュロの日礼拝」は4月10日(日)、通常通り午前10時から行ないます。また、4月17日(日)はイースター感謝礼拝となります。